

# 会員通信 No.273

岩手県俳人協会事務局  
〒020-0001岩手県盛岡市上米内字赤坂1-60 二階堂光江方  
電話 019-661-4816 振替 02310-1-13697

## 第47回総会・新年俳句会は1月21日(土)開催

…参加申込み・投句は12月5日(月)厳守…

令和5年度第47回総会・新年俳句会が下記のように開催されます。皆様ぜひご参加下さい。昨年に引き続き、懇親会は開かれませんが、本部の講師先生の講演は実施する予定です。昼過ぎからの開催となりますので、お昼を済ませてお出かけください。

- |                |   |                              |             |             |
|----------------|---|------------------------------|-------------|-------------|
| 1. 日時          | 令和5年1月21日(土)  | 12:00~受付                     | 12:30開会     | 15:30閉会(予定) |
| 2. 会場          | ホテルメトロポリタン盛岡本館4階 「姫神」の間 TEL019-625-1211                                   |                              |             |             |
| 3. 講師          | 松岡 隆子先生 公益社団法人俳人協会評議員 「栞」主宰   |                              |             |             |
| 4. 日程          | ○第1部 総会   | 句集出版祝い、新会員歓迎を併せて行います         | 12:30~13:20 |             |
|                | ○第2部 講演   | 演題「岡本眸の俳句」 松岡隆子先生            | 13:30~14:20 |             |
|                | ○第3部 新年俳句会  | 選者入選句発表・講評・表彰(選者8名・講師及び部内選者) | 14:30~15:30 |             |
| 5. 投句          | 事前投句 冬季雑詠2句(歳末・新年句も可) *自作、未発表のこと*当日投句はありません。                              |                              |             |             |
| 6. 締切          | ○参加申込投句締切 12月5日(月)必着 *申込書と投句用紙は切り離さず送付下さい。<br>○参加費・投句料は無料です。投句は会員のみとなります。 |                              |             |             |
| 7. 参加申込・投句の送付先 | (FAX不可。郵送でお願いいたします)<br>〒020-0851 盛岡市向中野1-13-1 村井康典宛 TEL019-631-1114       |                              |             |             |
| 8. 参加取消の場合     | 1月16日までに必ずご連絡下さい。当日取消の場合はホテルまでご連絡下さい。                                     |                              |             |             |
- ※お願い・・・○申込・投句は期限厳守でお願いします。 ○句稿は楷書ではっきりとお書き下さい  
○二重投句等の問題があった場合は取消とさせていただきます。  
※会員作品集追加希望の方に、総会当日販売いたします。(1冊1,000円)  
※受付時に、岩手県俳人協会年会費6,000円納付のご協力をお願いいたします。現金で納付いただくと、振込手数料や振込通知料等の軽減となります。ご協力よろしく申し上げます。  
※コロナ感染防止のため、参加の皆様にはマスク着用、手の消毒、検温のご協力をお願いいたします。  
また、総会当日、発熱等があった場合は、電話連絡の上、ご出席を見合わせるようお願い申し上げます。

### ◇講師プロフィール

松岡 隆子(まつおか たかこ)先生 (「栞」主宰)

- ・公益社団法人俳人協会評議員
- ・東京都西東京市在住
- ・昭和17年山口県生まれ
- ・句集 『帰省』『青木の実』

### ◇句集出版について・・・お知らせ下さい。

総会において、今年度句集・評論集を出版された方々へ本協会より祝意を表します。句集を出版された方がいらっしやいましたら事務局までお知らせ下さい。

## 第 4 3 回 鍛 錬 会 終 わ る

……紫波町陣ヶ岡歴史公園吟行・鍛錬会賞は阿部野の女氏……

秋晴れに恵まれた10月2日、紫波町の陣ヶ岡歴史公園を吟行地として、令和4年度岩手県俳人協会第43回鍛錬会が開催されました。参加者は42名でした。吟行しての鍛錬会は3年ぶり。いつもは静かな公園に明るい声が響きました。

今は神社となっている公園は、蝦夷平定のため坂上田村麻呂が宿営したのをはじめ、前九年合戦では源頼義が、奥州合戦では源頼朝が陣を敷いた小高い丘。周囲には収穫期を迎えた穀倉地帯が広がっています。参加者は史跡をたどり、古代から近世に至る歴史に思いを馳せながら句作に励みました。

俳句会は、町内の志賀理和氣（赤石）神社に場所を移して開かれました。全員の互選による5句投句3句選が行われたのち、選者選が披講され、阿部野の女氏の「つはもののごとくふえゆく秋茜」が第43回鍛錬会賞に選ばれました。



歴史公園の杉木立の中を吟行



蜂神社境内で早速一句



赤石神社でお祓いを受ける



俳句会始まる



鍛錬会賞は阿部野の女氏

★お悔やみ申し上げます。 久保田絹子様（盛岡市） 9月27日ご逝去

令和四年度岩手県俳人協会  
第四十三回鍛錬会入選作品

◇鍛錬会賞(白濱一羊先生選)

つはもののごとくふえゆく秋茜 阿部野の女

◇白濱一羊先生特選(順に天・地・人賞)

赤石の幣につるみて赤とんぼ 和田 タケ  
昼の虫頼朝軍の数を超ゆ 鉄本 正人

入選(七句)

秋の日の射しみて昏し陣ヶ岡 二階堂光江  
天高し根元ひとつの夫婦杉 工藤 幸子  
狛犬に食べられさうな蜻蛉かな 小林 史枝  
将一人兵は幾万蚯蚓鳴く 川村 健  
日の輪形月の輪形も露菴 二階堂光江  
空堀の丸木の橋に木の実かな 八重樫美佳  
木漏れ日に叩きて遊ぶ猿茸 岩渕 洋子

◇澤口航悠先生特選(順に天・地・人賞)

板の碑に手書きの歴史小鳥来る 大信田宏子  
猿茸叩けば棒の折れにけり 白濱 一羊  
その先に願ひ石あり小鳥来る 古川 制子

入選(七句)

容赦なき裏参道の牛膝 大信田宏子  
陣ヶ岡稲田を攻むるコンバイン 鉄本 正人  
晒し場の石の蔭より虫の声 安達 広子  
ものもの末路のごとくいぼむしり 安達 広子  
空堀の丸木の橋に木の実かな 八重樫美佳

千年の陣営址や群れとんぼ 兼平 玲子  
木の実降る吟行コース受付所 田辺 厚生

◇及川永心先生特選(順に天・地・人賞)

北東に傾ぐ老杉鷹渡る 川村 健  
古戦場の恋の伝説実紫 安達 広子  
稲の香や名将陣を張りし丘 相馬 定子

入選(七句)

千年ののちの秋草野営跡 三角 尚子  
神は早や旅に出でしか森閑か 川村 健  
晒し場の石の蔭より虫の声 安達 広子  
秋うらら王子古墳にコップ酒 和田 タケ  
赤石の幣につるみて赤とんぼ 和田 タケ  
秋の蝶舞ひ上りたる神の庭 及川 忠子  
今昔のとんばう止まる古墳かな 古川 制子

◇二階堂光江先生特選(順に天・地・人賞)

蝦夷も消え源氏も消えて稲の秋 及川 永心  
日の輪より月の輪低し秋の草 白濱 一羊  
怒りとは真つ直ぐなものの秋の蜂 古川 制子

入選(七句)

稲刈の始まつてみる煙かな 三角 尚子  
晒し場の石の蔭より虫の声 安達 広子  
猿茸叩けば棒の折れにけり 白濱 一羊  
祓はれて「赤石」撫でて豊の秋 佐藤 嘉子  
天高し四方の大樹へ神の鈴 田辺 厚生  
東根山の風来て熟る紫波林檎 大信田宏子  
つはもののごとくふえゆく秋茜 阿部野の女

◇及川茂登子先生特選(順に天・地・人賞)

赤石のおでこすべすべ菊日和 八重樫美佳  
白風と赤き鳥居を潜りけり 兼平 玲子  
草深き月の輪形や虫すだく 澤口 航悠

入選(七句)

蝦夷も消え源氏も消えて稲の秋 及川 永心  
踏めば水滲む草地や秋の雲 八重樫美佳  
秋の陽に千木かがやきて越天楽 佐藤たけ子  
天高し四方の大樹へ神の鈴 田辺 厚生  
ものもの末路のごとくいぼむしり 安達 広子  
秋色のあぢさゐ愛でて蜂神社 古川 和子  
陣跡の蝦夷の記憶曼珠沙華 村井 好子

◇津志田武先生特選(順に天・地・人賞)

秋うらら王子古墳にコップ酒 和田 タケ  
晒し場の石の蔭より虫の声 安達 広子  
池枯れし日の輪月の輪昼の虫 阿部ゆき子

入選(七句)

古戦場跡にひっそり秋の蜘蛛 菊池 節子  
堀跡の底にかそけき秋の声 八重樫美佳  
狛犬に食べられさうな蜻蛉かな 小林 史枝  
冷まじや立て看板に史実のみ 和田 タケ  
宿营地跡ひとときはに赤のまま 安達 広子  
月の輪の形の見えず秋の草 山火 律子  
首洗ひ池深閑と草紅葉 三角 尚子

◇第33回公益社団法人俳人協会東北俳句大会宮城大会入選作品（紙上句会）

（岩手県関係の大会賞・選者特選のみ紹介）

○大会賞（徳田千鶴子先生特選）

一条の滝の一念身にとほす 上野 節子

○大会賞（伊藤伊那男先生特選）

ハンカチの木の花誰の涙拭く 菊池 節子

○大会賞（蓬田紀枝子先生特選）

永き日に選る平積みの新刊本 大信田宏子

○木村秋湖先生特選

玫瑰や姥捨浜と伝へ聞き 安達 広子

○小野寿子先生特選

鉢巻のをんな操る耕運機 円子 涼子

○山崎雅葉先生特選

辛夷咲く遠野を繭で包むごと 小山 尚宏

○岩谷塵外先生特選

夕焼やまだ住めぬ町住まぬ町 吉田 茂樹

○鈴木正子先生特選

夕焼やまだ住めぬ町住まぬ町 吉田 茂樹

○伊藤寛先生特選

戦況のラジオを低く露を斜く 佐藤 嘉子

○橋本研二先生特選

終戦日ソ連嫌ひのままに老ゆ 佐々木一夫

夕焼やまだ住めぬ町住まぬ町 吉田 茂樹

○小林里子先生特選

愚かなるいくさふたび晶子の忌 阿部野の女

◇第75回岩手芸術祭「県民文芸祭作品集」俳句入選作品

○芸術祭賞

下北の秋 兼平 玲子

天高し野放し馬と灯台と  
宇曾利湖の怖ろしきほど水澄めり  
海峡の沖の漁火銀河濃し  
本州の天辺の町鳥渡る  
爽籟や仏ヶ浦といふ浄土

○優秀賞

焼走りの熔岩 木関 借楽

爆砕の地に重なりぬ夏の熔岩  
熔岩原の径辺に微か苔の花  
地に圧す熔岩の隙間に蜘蛛の糸  
秋澄めり熔岩原に聴く地の鼓動  
秋あかね熔岩の尖りを好みをり

○奨励賞

送り火 岡部 玄治

どの山もちからを抜いて盆近し  
草市や一日がまた雨に過ぎ  
盆花の匂ひとつのりて寝つかれず  
降りやみて川音とどく蓮の飯  
送り火の俄かに爆ぜるときあり

黄水仙 岩淵 洋子

黄水仙廃寺にむれて蝶と化す  
丹の堂と空奪ひ合ふ若楓  
万緑や鳥語あふるる光堂  
高館の間に鶯音を入るる  
楸榔碑挽歌のごとくつくつくし

◇第30回宮沢賢治生誕祭全国俳句大会（応募句のみ。一部掲載）

◇岩手芸術祭俳句大会入選作品

（大会は10月15日、盛岡市勤労福祉会館）

○文芸祭賞

みちのくの背骨しるべに鳥渡る 四日市洋子

○優秀賞

本閉じるような死のありて邯鄲 四戸美佐子

○奨励賞

出張のはずの父みて運動会 及川 永心

○大会賞（權未知子先生選）

田植終ふ村一面の新しき 河津詠太郎

○花巻市長賞（權未知子先生選）

朝礼の声の明るし更衣 菅原砂登子

○花巻市議会議長賞（太田土男先生選）

緑立つ幹に薬剤注入日 若林杜紀子

○花巻市教育長賞（白濱一羊先生選）

ゴルフボールほどの軽鬼の子走りけり 豊山れい子

○岩手日報社賞（照井翠先生選）

権現さま雲囁み吐きて山開き 中村 陽子

○河北新報社賞（高橋秋郊先生選）

難の日やひらがなだけの招待状 羽住 玄冬

○毎日新聞社盛岡支局長賞（大畑善昭先生選）

雲の影動く山肌牧開き 内藤 麻子

○染谷秀雄先生選

水口の石は代々田水張る 安部 克詠

○五日市明子先生選

螢の夜カンパネルラとすれ違ふ 千葉 任子